

九月二十二日から二十三日にかけて、倫理法人会全国役員代表者会が東京で開催されました。全国単会の会長を中心に千名以上の方に参加していただき、倫理運動の歩みと拡がりをお伝えしました。

初日の懇親会では、下村博文文科科学大臣が登壇され、メッセージをいただきました。下村大臣は、先ごろ開催が決定した東京オリンピック・パラリンピックの担当大臣でもあります。出演したテレビ番組で、次のような話をされていました。

「近年のオリンピック開催国では、ボランティアの活躍が成功の道を作っている。七年後のわが日本も、各国からの選手や応援に来られる方を、日本でしかできない おもてなしでバックアップしていきたい」

今回、オールジャパンで掴んだ二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定は、プレゼンを行なったメンバーの活躍に光るものがありました。

プレゼンのメンバーは、話し方、アピールの仕方、身ぶり手ぶりにいたるまで、事前に繰り返し練習して、周到に準備をして本番に臨んだそうです。プレゼンの指導にあたったコーチたちも、「練習とりハーサル、また練習とりハーサル、そして練習とりハーサル」と言い続けたそうです。

その結果の素晴らしいスピーチが、多くの関係者の心に響いたことは言うまでもありません。



基本を忠実に繰り返し おもてなしの心を育む

全国の単位倫理法人会では、毎週経営者セミナー（以下MS）を開催しています。MSとは、参加する経営者自らが自己革新をはかる場であり、企業と家庭の健全な繁栄、地域社会の発展、日本創生に貢献するリーダーを育成する場でもあります。

各単会では、役職者を中心に魅力あるMSを展開していただいています。常に新鮮で、活気のあるMSにするためには、やはり「事前の準備」が大切でしょう。

「経営者セミナーマニュアル」に則って運営をしていく中で、同じことの繰り返しのように感じるかもしれません。しかしそれをマンネリと捉えるか、おもてなしのための準備と捉えるか。マニュアルの文字に表われない行間にこそ心を込めて、よき準備をして、参加者をお迎えしたいものです。

「気づいたらすぐする」ことが物事をしとげる秘訣である。又大切なことは、十分に研究調査し、準備を完全にして、時がきたと思えば、一気かせいにやってやりぬくおしておして押し通す。

しかし一度には出来ない事が多い。第一回にうまく行かねば、第二回、又第三回と、何度も何度もくりかえし、うまずたゆまずくりかえす。『万人幸福の葉』第十二条今年度は「拡充」三年計画の最重要年度です。MSを通して倫理実践者を増やすとともに、足腰の強い組織運営ができる単会づくりを成就しましょう。

絵・今谷 鉄柱